

会 議 録

会議の名称	平成15年度 第3回西東京市環境審議会
開催日時	平成15年6月20日(金) 19時00分から21時10分まで
開催場所	西東京市役所保谷庁舎 防災センター6階 講座室2
出席者	【委員】金井委員、櫻井委員、清水委員、三木委員、網野委員、 宇都宮委員、松永委員、鈴木委員、村松委員、金成委員、 中村委員、矢内会長、西川副会長、菊池副会長 【事務局】大森環境防災部長、山本環境保全課長、青柳環境保全課長補佐、 横山環境計画係主事、プレック研究所 山内
議 題	1. 前回会議録の確認 2. 環境基本計画答申案について 3. その他
会議資料の 名 称	資料1 第2回環境審議会まとめ 資料2 今後の環境審議会検討の流れ(案) 資料3 西東京市環境基本計画中間答申素案 資料4 中間答申素案作成の経緯 資料5 平成15年5月20日第60号広報西東京特集号(写) ・22頁以降の記述方法について ・矢内会長作成資料、金井委員作成資料、村松委員作成資料
記録方法	発言者の発言内容ごとの要点記録
会 議 内 容	
<p>(19時00分開会)</p> <p>矢内会長 それでは、時間になりましたので開会します。 (配布資料の確認)</p> <p>中間答申素案の作成に向けて、6月5日に小委員会を開催しました。夜7時からはじめ、終わったのが11時40分くらいになりました。この後、6月11日に正副会長でさらに検討を加えた上で、資料3の素案を作成しました。</p> <p>今日は2時間で一通り見なくてはならないので、まず全体のトーンについて確認したいと思います。その後、次回の審議会まで重点プロジェクトなどを考えていくことになるかと思えます。そういうわけですので、中間答申の作成にあたっての枠組みなど大きな問題点に絞って、今日はこの会で合意形成をしていただき、その後、素案の中身全体を見渡して、個々の記述に関する意見をいただくことにします。</p> <p>ではまず、前回議事録について、特に気になるところがありますでしょうか。無いようですが、今後もし出てきましたら、事務局までご指摘ください。</p> <p>では本題に入ります。素案を全体的に見てみてください。章の中で「現状と課題」については、最終的にはデータの補充なども行っていくこととなりますが、素案でも全体としては市の課題を導くという構成にしています。</p> <p>基本方針は4つ。これに従い、章で取り組みを整理しています。</p>	

章は作成作業中ということもあり、あえて下線をつけるなどして、記述内容の出所をわかるようにしていますが、このために見にくくなっています。ここで特に考えていただきたいのは、各基本方針に添って書かれている「将来像」と「施策の展開」の所の書き方です。

「施策の展開」では、素案では、これまでの提案を箇条書きにしているだけですが、何を考え、何をやるのかを明確に描いていくことが、重点プロジェクトを出していく上でも重要と考えます。

例えば基本方針4でいいますと、私が持ってきた資料のように、「施策の展開」の部分は具体的なステップを打ち出していった方が、具体的で、迫力のある内容になるのではないかと思います。どうでしょうか。

清水委員

基本方針1～4それぞれについて、こういうように書いたらどうかという提案でしょうか。

矢内会長

これは私の思いつきなので十分な内容ではないかもしれませんが、これまでいろいろなところで出されたアイデアに出来るだけ従ってまとめたつもりです。ステップにこだわるのではなく、とにかく、「施策の展開」の書き方が具体的な内容になるようにしたいというのが私の意見です。

清水委員

第1ステップ...という書き方には必ずしもこだわる必要はないと思います。

櫻井委員

矢内会長提案の資料の方がかなり分かりやすくなっているようです。このように文章で書き込んだ方が親切で、意図が明確に出せると思います。問題は、誰が文章を書くかということでしょう。計画の質としてもこの方が良いのですが、書く人には、この部分が非常に重要であると言うことを良く理解した上で作業してもらうことが必要でしょう。

清水委員

ステップは、将来に向かっての手順というイメージで書かれているようです。すべての基本方針についてこのような書き方が出来るかという点と難しいと思いますが、出来ればそのような書き方を行うのが望ましいのではないのでしょうか。

矢内会長

例えば基本方針3では、こういう書き方がふさわしいのでしょうか。金成委員はいかがお考えになりますか。

金成委員

今回は素案をよく読んできました。「施策の展開」の大筋はいいと思います。「将来像」については少し違和感を覚えました。人にも見てもらったのですが、やはり市民生活と

のつながりの深さを考えると、基本方針3では「ごみ」を最初に持ってきた方が良いと感じました。

網野委員

「施策の展開」をより具体的に書くことで、迫力が出るという考え方には賛成します。ゴールに向かうステップというイメージで描くのも、具体性を増す効果はあると思います。また、取り組みの成果を評価できる仕組みとしても、どのステップまで達成できたのかが計れて、良いのではないのでしょうか。ただ、テーマによってどのようなステップで書いていけるか違いがでてくると思います。

櫻井委員

「施策の展開」というタイトルでも良いのですが、この部分を書くスタンスとしては、「戦略を明らかにする」というイメージして書いていくべきでしょう。

鈴木委員

重点プロジェクトへのつながりを考えても、ステップを考えた文章化はよいと思います。ただ、ずっと第1ステップに留まることがないように施策を進めていくということが大切になります。

矢内会長

どういった解釈でステップを描くかというのは難しいところもあります。ただ、少なくともこの部分で明確に施策の方向性を示すということは提案したいと考えます。

金成委員

全ての基本方針で、ステップという考え方で書いていく必要はないのではないのでしょうか。

矢内会長

そうですね。例えばごみについてなら、最初のごみを減らすことで、次に事業者の対策というようなのが私のイメージではあります。このような戦略的な書き方が出来れば、という提案です。「施策の展開」は、審議会としての考え方を特に明確に出せる部分だと思いますので。

金井委員

これまで検討してきた内容を単純にまとめただけでは足りないような気がします。4つの基本方針だけでなく、全体的な大きなイメージを出していく部分を付け加えていくべきではないかと感じます。

金成委員

ごみ減量といっても、資源化の取り組みも不十分な状況なので、こういった書き方は難しいと感じます。

清水委員

施策を単純に並べるだけでなく、段階的に整理するのはよいと思います。ステップで書くなら、明確な指標を立てて、ステップの達成を計れることが重要ではないでしょうか。指標とステップを関連付けるということを考えるのであれば、この書き方が良いのではないのでしょうか。

櫻井委員

一通り読んだのですが、同じような内容が繰り返し出てきているようです。提案のような書き方であれば、もっと深く書き込めますし、重複も減らせてよいと思います。施策展開とその次の取り組みを明確に書き分けていくことが重要で、これからはその整理をしていく段階になると思います。

矢内会長

もうひとつの提案は、「将来像」についてです。ここは十分に議論がにつまらないままになっていました。分かりやすくしようとして、キャッチコピーは結果的にあいまいな描き方になったような気もしますが、この段階で一度みなさんと考えておきたいと思います。全体のつながりの中で違和感のないようにしたいのですが。

金井委員

市の基本構想と素案の将来像がダブっているところが多いようにも感じます。もっと素案の将来像は簡潔にして、将来像をすぐに施策の展開につなげるというイメージでも良いように感じました。ただその場合、現状と課題についてはどのように扱うか課題になります。

櫻井委員

矢内会長の提案は、将来像のキャッチコピーとその説明文を切り離したいという意味でしょうか。

清水委員

基本構想の将来像のキャッチフレーズに近い位置づけで、環境基本計画でも将来像のキャッチコピーを残しておきたいとも感じます。ただし基本構想との整合性を考えていくことが必要でしょう。基本構想のキャッチフレーズは簡潔な言い回しなので、これに合わせた雰囲気でも表した方が良いのではないのでしょうか。

櫻井委員

審議会答申としては中身が重要なので、あまりキャッチコピーにこだわるよりは、中身をしっかり検討した方がよいように思います。

松永委員

基本方針は、硬い表現とすべき部分なので、将来像のキャッチコピーはやわらかい文章になっていて良いと考えます。キャッチコピーと趣旨説明の文の組み合わせで表現するのは良いと思います。

西川副会長

キャッチコピーの部分が、明確に環境の姿を表現しているものもありますが、「歩いて知ろう…」というような表現は、将来の姿を表すものとしてはどうかと思います。あくまでも環境の姿をあらわすものであるべきだと考えますので、もう少し文章を検討したほうが良いと思います。また、基本方針3については、キャッチコピーが2つでよいのではないかと考えます。

中村委員

キャッチコピーだけではどういう環境を目指すのか明確にならないので、これと切り離さずに説明文をつける、素案のような書き方で良いと思います。

櫻井委員

これまでは漠然としたイメージをキャッチコピーで出していただけだったが、これは計画を読んでもらうためのきっかけに過ぎないと思います。大切なのはキャッチコピーが示している中身であり、説明文こそが重要と考えます。

矢内会長

では、将来像は書き方としては素案のままでいくことにします。

金井委員の意見に関連しますが、これまでの検討を踏まえ、市の環境課題として最も重要なのは何だと考えますか。今の段階では、十分に西東京らしさが計画に出てきていないようにも感じます。私としては、交通、農地・屋敷林、ごみ、東大農場などと考えます。これらも素案に入っていますが、これを柱にして書いていくということも考えられるのではないのでしょうか。基本方針の組換えではなくて、重点を出していくときのポイントとして、重要な課題を考えていくのはどうかということですが。

金井委員

それらの問題をまとめると、どういうことなのかという記述があるべきだと思います。素案は、4つの基本方針に当てはめてまとめていますが、これだけでは解決できない問題があるのではないのでしょうか。東大農場であれば、基本方針2で取り上げているが、基本方針1にも係ってくるわけなので、枠にはめてまとめるだけでは不十分である感じがします。

矢内会長

もともと審議会でも、環境問題はきちんとテーマごとに分けることは出来ないという議論がありましたが、分かりやすく整理するという意味で、やむを得ず4つに分けて整理しています。とにかく、先ほど提案したような西東京市の特徴的なポイントを打ち出していかどうかということです。

櫻井委員

東大農場について言えば、計画を通して保全の意義を市民に知ってもらいたい。また道路であれば、まちのアメニティなどにも関係してきます。結局、いろんなところに環境問題は関係してくるということを理解してもらうことが重要なので、会長の提案には賛成します。

矢内会長

重点プロジェクトが、4つの基本方針に引っ張られて矮小化していくことを懸念していました。東大農場であれば、基本方針2にあるからといって緑のプロジェクトの枠だけで収めてしまわないように出していきたいと思います。

網野委員

課題を4つの基本方針に分けて整理しているが、これによって問題の広がりや薄まってしまうところがあると思います。重点プロジェクトを打ち出す際には、問題の広がりをもう一度考えた上で書いていくことが重要だと思います。

矢内会長

各重点プロジェクトがどのように課題と絡み合っているのか、マトリックス的に整理するのもよいと感じます。

清水委員

ごみ問題であれば、市がどれだけ予算をかけて行っているのかというようなデータは明示しておくべきでしょう。定量的なデータを示すことで、取り組みを打ち出していくときの裏付けとして効果があるのではないのでしょうか。

鈴木委員

環境課題を考えた上で、そこから重点プロジェクトを抽出するという考え方は非常に重要と考えます。

金井委員

たとえば東大農場を守ることがどのくらい環境上意味のあることなのかを明らかにすることが重要だと思います。また、将来像から施策の展開、取り組みという流れでまとめるだけでなく、全体を捉えて、小さくても他の問題とは独立して存在する問題もあるかと思っていますので、これらを上手く取り上げるような工夫がほしいと思います。

矢内会長

「データをきちんと示す」という清水委員のご意見は特に重要と考えます。

松永委員

データは地名とか固有名詞もきちんと出していくことにより、課題を明確にしていくことが重要ではないでしょうか。

矢内会長

そろそろこの辺で、これまでの議論の確認をしておきます。

「将来像」については素案の書き方に従いさらに文章を練り上げていくこととします。

「各主体の取り組み」については、素案にあるもの以外でも必要な取り組みは付け加え、取捨選択しながらまとめていきます。

「施策の展開」は、段階的に戦略的に方向性を示せるような書き方にします。

さらに、市の大きな環境課題を意識した上で、重点プロジェクトを打ち出していくも

のとします。

さて、先日の小委員会後、金井委員から提案が出されていますが、これについても素案の中に入れ込んでいくというのでいかがでしょうか。

金井委員

先日は、時間内で上手くまとめて発言できなかったこともあるので、出させていただきました。

矢内会長

素案は、市民ワークショップでの意見なども含めて全て入れ込んで整理したものです。「10年後の数値目標」の部分は、例示として資料では出していますが、他の部分との整合性を考えながら、事務局で検討作業を進めたいと考えているところです。また「各主体の取り組み」は、これまでの意見を並べているだけであって、重点プロジェクトのための材料として示している程度ですので、今日の議題からは省かせていただきたいと思います。

今日これからは、特に「現状と課題」を中心に確認していきたい。見ていただいた結果、ご意見をいろいろとご指摘いただきたいと思います。

金成委員

素案51頁の「ゴミ処理の実施」に関して、不燃物であっても燃やしている施設もあるので、現状に合った書き方をしてほしい。52頁の「ごみの再資源化」に関しては、容器包装リサイクル法もあるので、廃プラスチック類の再資源化の検討ではなく、実施と明示してほしい。54頁の「プラスチックごみ等の再資源化」でも「実施」としてほしい。57頁「ごみ半減の仕組みづくり」で、ごみ収集の有料化検討の前段に、ごみ減量に向けた資源化の推進方策策定とすべきではないでしょうか。

金井委員

いろいろな意見があると思いますが、時間が限られていますので、前もって事務局に文書で提出してもよいのではないのでしょうか。

櫻井委員

ですます調かである調かなど、文体の統一をしてほしいと思います。また、用語で、資源物と資源ごみとか、もえるごみと燃やせるごみとか、いろいろな表現が混在していますので、一通り整理しておくべきでしょう。

清水委員

51頁で1人あたりのごみ量を826gとかで示すのではなく、ごみ袋何個分とかで表現した方が分かりやすいと感じます。

49頁のヒートアイランドに関しては、市がヒートアイランドを起こしているというよりも、都心の影響を受けているということを明確にしてほしいので、表現は工夫してほしい。また東京都が対策として行っていることをもう少し詳しく示しても良いと思う。

矢内会長

農地の相続税の補助などに関しては、現状では困難であるため、事前に削除させてもらいました。23頁では、ガスタンク前や下保谷といった具体的な地名を削除していますが、これは現状の部分で固有名詞を出すのはどうかという意見もあったためです。

松永委員

大気汚染による子供の健康被害については、ワークショップでも強く出た意見なので、表現を検討して、きちんと書いてほしい。地名などもきちんと出していった方がよいと思います。

金成委員

ここは旧保谷の住民の意見だと思いますが、旧田無でも同様な地点があるかと思うので、調査の上で示してもらいたい。

中村委員

ガスタンク前以外でも、幹線道路沿いは、大気汚染が懸念されるので、その点を示せばよいのではないかと。市民による測定データも10年以上の蓄積があるので、活用できないものではないかと。

菊池副会長

データの信頼度が、使用に耐えうるものかどうかは課題と思います。

矢内会長

データの提供元をきちんと示した上で使用するという点でよいのではないかと。

三木委員

NPOに委託して調査を行う場合も最近ではありますし、NPOだからデータに信頼性がないという判断は不適切です。

村松委員

信頼性に問題があるのであれば、その点を注釈とかで示すように配慮すればよいのではないかと。

菊池副会長

全体とのバランスで、基本方針1だけがデータが多くなるようなところもあるので、この上さらにデータを追加するのはどうかとも感じます。

中村委員

データがないものは仕方ないですが、あるものは活用していけばよいのではないかと。

金成委員

市民調査結果も載せればよいと思います。基本方針1だけがデータ量が突出するよう

であれば、資料編などに載せ換えれば違和感がないでしょう。

中村委員

大気環境に関する市民調査は全国的に市民が行っている調査なので、広域的に見て市がどういう状況にあるのかもわかるのではないのでしょうか。

金成委員

データの信頼性が懸念されますし、測定時の状況によって大気環境の状況は変わりますので、その影響も懸念されますが。

中村委員

データは全国的に同じ測定方法で行っています。

矢内会長

測定業者が測定しても、測定時によってデータは変動するので、それを前提として使用すれば問題ないでしょう。

網野委員

客観性のあるデータがあれば使用すればよいが、NPOのデータをどういうスタンスで取り扱うかが問題と思います。市の環境を把握するために有用であれば、出典を明確にして示せばよいのではないのでしょうか。

松永委員

データを示すことにより、環境の状況が明確になると思います。

清水委員

市の重要な施策決定にあたっては、信頼性のある情報に基づく必要があります。その意味では、データの信頼性は重要です。

矢内会長

データの扱いについては、常識的な判断もありますが、NPOのデータを掲載すること自体は特に問題ないと考えます。同じデータがあった場合は、信頼性の高いほうを使う、あるいは併記する。データない場合には多少信頼度が低くても使うという、いろんなスタンスが考えられますが。

西川副会長

S P M濃度が高いのはガスタンク前だけなのか、他にもあるのか、よく調査した上で出していくべきでしょう。

鈴木委員

市民の測定したデータであっても、そのデータの管理者に了承いただけるのであれば使用していけばよいと思います。

三木委員

たとえ計画書に信頼性の低いデータを掲載したとしても、これに関して訴訟とかの問題があった場合には、新たにデータを取ることになるので、それほど神経質に考える必要はない。データは、あるものは使用できる水準のものかどうかを精査した上で掲載するというスタンスでよいのではないか。

宇都宮委員

事務局の了解があれば載せていくというので良いのではないのでしょうか。

菊池副会長

NPOのデータを使うのはよいのですが、計画書の中ではデータの見せ方が重要となります。

中村委員

西東京市には大気汚染物質がたまりやすいというような課題を出しているが、それを裏付けるような地図として示すことも考えられます。

西川副会長

大気汚染健康被害認定患者がワースト3というのは、あえて計画で出す必要性がないと感じますので、出さなくても良いのではないのでしょうか。市のイメージを悪くするだけではないのでしょうか。

矢内会長

「現状と課題」の中で、客観的な裏づけのない記述については、調査した上で書いていくということになるでしょう。

櫻井委員

施策を行うときに、そのもとになる課題を明確にしておくことが重要です。課題を出すことで市のイメージが悪くなるというような懸念はする必要のないのではないかと思います。

ただ例えば、49頁の将来像で「事業者のゴミになるものを作らない～」、あるいは「自動販売機をなくす取り組み」といった、特定のものを槍玉に挙げるような書き方には注意した方が良いでしょう。

矢内会長

次回の審議会までに、施策の展開のところの叩き台を作成し、別刷りで用意したいと思います。「現状と課題」のデータについても、できるところは補っていきたい。

いよいよ重点プロジェクトを検討していく段階に入りますので、各委員のアイデアなどを次回までに考えておいていただきたいと思います。

今回は7月4日になります。それまで時間があまりありませんので、資料は当日配布になると思いますが、ご了承ください。

それでは今日はありがとうございました。

(21時10分閉会)

以上